

花のいたうひろごらざるよりいふにもあるべし、から國ふみには菜の部にいられたり、若葉をくふ事ならんかし、大かた花は折とこそいへ、つむとはいはざるを、此花にしもまかいふは、莖いとみじかくて、折とはいふべくもあらぬさまなれば也、まかるを此あたりのものしり人、なまくに菜の類なる事をも聞しり、又つむといへるが、若菜などのやうにきこゆるなど、おもひあはせてのわざなるべし、此花をいと多くつみもて来てくへりしが、いたうわづらひてえもいはぬ事などしてくるしみけるとぞ、足八ッありとて、あらぬ蟹をくひし事、から人にもあり、物まり人の中々なるひがごとする、今にはじめぬ事なりかし、

〔宜禁本草五乾〕莖菜 苦寒、此菜野生、非人所種、葉似柳花紫色、子如米、洵食之滑、久食除心煩熱、身重懈惰多睡、擣傳熱腫、主寒熱癰癰、生瘡結核、下瘀血。

〔庖厨備用倭名本草一質疑〕莖菜 倭名抄ニスミレ、多識篇野セリ、元升○向井曰、今人皆駒引草ヲスミ

レト云、コマヒキ草ハ俗ニ云スマフトリ草也、然ニスミレハ古人ツミトリテ春ノ菜茹ニス、春野ニ生ズ、古人ハ春日ニ野ニ出テスミレヲツム、其花紫ニシテ可愛、古歌ニ、打ムレテ莖ツミニト來ワレゾ野ヲナツカシミ、一夜子ニケル、又ヨク荒野ニ生ズルナルベシ、古歌ニ、昔ミシイモガ垣子ハアレニケリツバナマジリノ莖ノミシテ、今云スマフトリ草ハ、食スル人ナシ、其花モ愛スベキ形色ニモアラズ、歌ニヨミナツカシムベキ花ニモ、菜ニモアラズ、古人ノ愛セシ莖ハスマフトリ草ニハアラザルベシ、又西國民間ニ云スミレハ莖葉根トモニ水仙胡蒜ニ似タリ、三四月麥未熟以前ニ根ヲ掘取り、蒸熟シテ食ス、春日民家ノ糧ニシ、飢ヲ救フ、根ノ形ハ胡蒜ニ似テ白シ、蒸熟スレバ蜜色ノ如シ、其甘キコトハ糖蜜ノ如シ、農家ニ是ニ麥麩ヲカケテ食ス、其花色赤クシテマンジュユシヤケノ如ジヤ、愛スベキ形色也、然レドモ其莖葉ヲ食モノナシ、是モ古人題詠ノスミレト云ガタシ、爾雅云、齧苦莖、註云、今莖葵也、葉似柳、子如米、洵食之滑、疏云、齧一名苦莖、可食之菜也、唐